

進学することは大切ですが

一昨日受験した生徒がいました。それも、受験校は関西にある学校です。昨日登校してきたその生徒に、私は声をかけました。彼は照れながら、この上なく緊張したこと、帰宅が夜の十一時過ぎだったこと、今は眠くて仕方がないことなどを話してくれました。

当然保護者と一緒に行ったものと私は思っていたのですが、彼の話を聞いてびっくり！行きも帰りも一人だったとのこと。私は試験で頑張ったこと以上に、一人で受験に行ったことを褒めました。

「新幹線の乗車券と特急券はどこで買ったの？」
「それは、みどりの窓口で……」

私はそれを聞いて感動しました。「みどりの窓口」を知っている中学生がどれだけいるでしょう。受験の出来栄えどうだったかということより、一人で中央線にのって名古屋まで行き、みどりの窓口で新幹線の特急券と乗車券を購入して、新幹線で関西へ一人旅したことに私は興味を持ちました。

受験だけでも緊張するのに、一人で県外の受験校まで行くことで、彼の不安や緊張は何十倍、何百倍にも膨れ上がっていたことでしょう。毎日から学校の往復をしているだけの一中学生が、ある日ある時、一人で公共交通機関を使って目的を達成できる大人になりました。それがとってはうれしいことでした。以前、中学生を引率して名古屋駅に行ったことがあります。名古屋駅に着く前に、乗り換え案内が車内放送で流れたときです。車掌のアナウンスに「十一番線」という言葉が入った時に生徒たちが「十一番線！」と驚きの声を上げました。瑞浪駅には三番線までしかありませんからね。びっくりするのも無理ありません。

鉄道に興味のある中学生なら、平気で旅することができるともいけません。しかし、多くの中学生はそうはいかないでしょう。見知らぬ土地に、慣れない方法で移動することに怖気づく中学生が多いのではないかと私は思います。多くの生徒は地元の高校を卒業する十八歳で、大学受験や就職試験のために地元を離れます。この生徒は三年も早くその経験をするようになったのです。そういうえば、東京に旅立った水野裕哉君も、東京へ一人で向かいました。スーツケースを携えて、一人で東京に向かった裕哉君と違い、今回一人で県外受験に行った生徒と違い、大空に向かって飛び立つたくましい成鳥になったような気がします。進学することは大切ですが、同時進行で、たくましい大人になってほしいとも願っています。

(二月十八日 記)

